

札幌自動車道  
桜町高架橋塗替塗装工事

特記仕様書

令和6年10月

東日本高速道路株式会社 北海道支社

札幌管理事務所

## 目 次

1. 工事概要 .....	1
2. 適用する共通仕様書 .....	1
3. 監督員及び主任補助監督員の権限 .....	1
4. 配置技術者に関する事項 .....	2
5. 工事用地等に関する事項 .....	3
6. 関連施設その他との関係 .....	4
7. 作業日及び作業期間に関する事項 .....	4
8. 週休2日工事 .....	5
9. カーボンニュートラル試行工事 .....	7
10. 関連工事に関する事項 .....	8
11. 工事費構成内訳書に関する事項 .....	8
12. 工程表及び履行報告に関する事項 .....	9
13. 保安に関する事項 .....	9
14. 環境保全に関する事項 .....	13
15. 再生資源及び建設副産物に関する事項 .....	13
16. 補完検査に関する事項 .....	15
17. 現場環境改善に関する事項 .....	16
18. 工事変更等検討会の設置 .....	16
19. 工事細部に関する事項 .....	17
20. 割掛対象表の項目に示す工事の内容 .....	27
21. 補足事項 .....	28

様式－1	.....	不動産貸付申請書
様式－2	.....	取得報告書
様式－3	.....	工事費構成内訳書及び工程表の提出について
様式－3（別添）	.....	工事費構成内訳書
様式－4	.....	工程表
様式－5	.....	工事工程報告
様式－6	.....	間接工事費計画書の提出について
様式－7	.....	間接工事費の増加費用に関する協議書
様式－7（別添）	.....	変更間接工事費計画書
様式－8	.....	間接工事費の増加費用見積書
様式－9	.....	間接工事費の増加費用同意書
様式－10	.....	カーボンニュートラル施工計画書
様式－11	.....	創意工夫・社会性等に関する実施状況
別添1－1、1－2	.....	危険物等チェックシート①、②
別添1－3	.....	施工計画書チェックリスト、現場チェックリスト

## 1. 工事概要

### 1-1 工事名

札幌自動車道 桜町高架橋塗替塗装工事

### 1-2 道路名

札幌自動車道

### 1-3 工事箇所

自) 北海道小樽市潮見台 (KP W38.3)

緯度 43° 10' 55" 経度 141° 1' 10"

至) 北海道小樽市新光 (KP W35.3)

緯度 43° 10' 5" 経度 141° 3' 0"

### 1-4 施工地域区分及び間接工事費率適用区分

本工事の実施工場所の施工地域区分は以下のとおりである。

- ・ 2車線以上（片側1車線以上）かつ断面交通量が5,000台/日以上以上の車道において車線変更を促す規制を行う場合の工事
- ・ 市街地部（D I D地区及びこれに準ずる地区）が施工場所に含まれる場合の工事
- ・ 本工事の間接工事費率適用区分は「修繕」工種区分は「塗替塗装」である。

### 1-5 コリンズへの工事概要及び位置情報の入力

土木工事共通仕様書1-5-4「コリンズへの登録」について、位置情報及び工事概要の項目には、特記仕様書の1-3工事箇所の記載内容を入力することとする。

## 2. 適用する共通仕様書

契約書第1条に規定する「土木工事共通仕様書」（以下「共通仕様書」という。）は、令和6年7月版とする。なお、共通仕様書に記載された適用すべき諸基準については入札公告時点の最新版を適用するものとする。

## 3. 監督員及び主任補助監督員の権限

### 3-1 監督員の権限

契約書第9条第2項の規定に基づき監督員に委任した権限について、共通仕様書1-6-1「監督員の権限」の規定に次を加えるものとする。

(16)「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」(平成12年5月31日法律第104号)

第12条第1項の規定に基づく説明先及び同法第18条第1項の規定に基づく報告先

(17) 本特記仕様書2-1-5の規定に基づき行う工事費構成内訳書の提示、実績変更対象費の増加費用の協議、決定、通知

### 3-2 主任補助監督員の権限

共通仕様書 1-6-3 (2) のほか、主任補助監督員に委任した権限は次のとおりである。

・共通仕様書に規定する監督員の権限のうち下表の事項

章	項 目	内 容
1-25-1	安全対策	安全教育の提出先
19-4-3	交通安全要員計画	交通安全要員実施報告書の提出先

## 4. 配置技術者に関する事項

### 4-1 配置技術者の資格

主任技術者又は監理技術者は、次の基準を満たす技術者を専任で配置すること。

- (1) 主任（監理）技術者が、本工事に対応する建設業法の許可業種（塗装工事業）に係る資格を有する者であること。
- (2) 監理技術者である場合は、監理技術者資格者証及び監理技術者講習修了証を有する者であること。

### 4-2 配置技術者の工事経験

現場代理人、主任技術者及び監理技術者のうち、いずれかの者が平成 21 年度以降に元請として完成及び引渡し完了した次の施工経験を有すること。なお、施工経験における従事役職は問わない。また、経験を有する者が現場代理人のみであった場合には、その者は本特記仕様書 4-1 (1) に示す資格を有している者でなければならない。（共同企業体の構成員としての施工実績は、出資比率が 20 % 以上の場合のものに限る。）

（工事経験）

鋼橋の塗替塗装工事

### 4-3 監理技術者の専任義務の緩和について

4-3-1 共通仕様書 1-7-3 (4) 5) に記す特例監理技術者が兼務できる工事の工事範囲は以下の通り。

（対象範囲）

小樽 IC から朝里 IC を通過する市町村（小樽市）

4-3-2 本工事において、特例監理技術者と監理技術者補佐の配置を行う場合又は配置を要さなくなったときは適切に工事実績情報システム（コリンズ）への登録を行うこと。

4-3-3 本工事において、特例監理技術者と監理技術者補佐の配置を行った場合は、配置期間において施工体制点検等の場を活用して共通仕様書 1-7-3 (4) 8) で提出された内容の確認を行う。

## 5. 工事用地等に関する事項

### 5-1 敷地の使用

- (1) 共通仕様書 1-9-2「受注者が確保すべき工事用地等」に規定する受注者が使用可能な発注者の敷地は、下表のとおりとする。なお、使用の目的は本工事の実施に限るものとする。

所 在 地	① 小樽市新光（朝里川橋高架下 P1～P2 間 ） ② 小樽市新光（朝里川橋高架下 P4～P5 間 ） ③ 小樽市桜（桜町高架橋下 P3～P5 間 ） ④ 小樽市桜（桜町高架橋下 P6～P7 間 ） ⑤ 小樽市桜（桜町高架橋下 P8～P10 間 ） ⑥ 小樽市桜（桜町高架橋下 P11～P12 間 ）
敷 地 面 積	① 約 686 m <sup>2</sup> ② 約 1,064 m <sup>2</sup> ③ 約 1,458 m <sup>2</sup> ④ 約 729 m <sup>2</sup> ⑤ 約 1,461 m <sup>2</sup> ⑥ 約 732 m <sup>2</sup>
使 用 用 途	割掛対象表に示す塗膜除去用環境対策資材設置及び低濃度PCB廃棄物の一次保管庫、施工用ヤード等として使用のため
期 間	工事期間中

- (2) 受注者は、前項の敷地を使用する場合には、東日本高速道路㈱北海道支社札幌管理事務所長に不動産貸付申請書（様式-1）を提出するものとし、敷地の使用にあたっては、別途不動産貸付契約を札幌管理事務所長と締結しなければならない。なお、不動産貸付契約における敷地の使用料は無償とする。

## 6. 関連施設その他との関係

本工事に関連する主な施設及び管理者は、下表のとおりである。

### (1) 道路・鉄道関係

位置	路線名等	管理者名	摘要
朝里川橋	河川管理用道路	北海道	朝里川左岸
	市道軍用線	小樽市	P6～A2 交差部
桜町高架橋	市道桜 20 号線	小樽市	A1～P1、P13～P14 交差部
	市道桜 1 号線		P1～P2、P14～A2 交差部
	市道桜 38 号線		P2～P3 交差部
	市道桜 7 号線		P5～P6 交差部
	市道桜町本通線		P7～P8 交差部
	市道桜 14 号線		P10～P11 交差部

### (2) 河川・水路関係

位置	路線名等	管理者名	摘要
朝里川橋	二級河川 朝里川	北海道	P3～P4 交差部
桜町高架橋	準用河川 熊碓川	小樽市	P5～P6 交差部

### (3) 電力・通信施設関係

位置	路線名等	管理者名	摘要
朝里川橋	光ケーブル	東日本高速道路(株)	橋梁地覆添架
	電源ケーブル		橋梁壁高欄添架
	テレビケーブル	テレビ共聴施設管理組合	橋梁下交差部近接
桜町高架橋	電力線	北海道電力(株)	橋梁下交差部近接
	通信線	東日本電信電話(株)	

### (4) その他

受注者は、上記以外の本工事に関係する施設等を発見したときは、監督員に通知し、監督員の指示に従わなければならない。

## 7. 作業日及び作業期間に関する事項

### 7-1 冬季休止期間

共通仕様書 1-1-3 「作業日」の規定による他、工期内の 12 月 1 日から翌年 3 月 31 日までの期間は冬季休止期間として、現場の作業を行ってはならない。やむを得ず現場の作業を行う必要がある場合、受注者は作業理由とその施工計画書を監督員に提出し、確認を得なければならない。監督員は提出された冬季休止期間作業確認願の内容を確認後、その結果を書面にて通知するものとする。

なお、受注者の事由により冬季休止期間中に現場の作業を行った場合の増加費用については、すべて受注者の負担とし別途支払は行わないものとするが、監督員が冬季休止期間中の現場の

作業を指示した場合の費用については、監督員と受注者との協議し定めるものとする。

## 7-2 交通規制可能時間

下表に示す項目の施工に伴う交通規制可能時間は表中に示す時間内とする。なお、監督員の指示により規制開始の延期又は途中で規制解除（工事中止）を行うことがある。また、受注者は、交通規制による著しい渋滞若しくは、そのおそれがある場合や、交通の危険及び異常気象時には、監督員の指示により、一時規制を解除（工事中止）する措置を講じなければならない。これらの措置に要する費用は、監督員と受注者で協議し定めるものとする。

作業内容	施工区間	交通規制可能時間帯	摘要
吊足場設置・撤去作業 及び移動足場による 塗替塗装作業	交差市道	日出～日没	片側交互通行規制及び一時 通行止め

## 8. 週休2日工事

本工事は、監督員と受注者双方が工程調整を行うことにより、週休2日を達成するよう工事を実施する「週休2日工事（発注者指定方式）」である。

### 8-1 定義

- (1) 「週休2日」とは、対象期間において、4週8休以上の現場閉所を行ったと認められる状態をいう。
- (2) 「対象期間」とは、次の各号に掲げる期間を除く工事着手日から工事が完成した日までの期間をいう。
  - 1) 共通仕様書1-13「作業日」に規定する12月29日から翌年1月3日まで及び夏期休暇（3日）の期間
  - 2) 共通仕様書1-35「工事の一時中止」に規定する工事全部を中止する期間
  - 3) 工場製作のみを実施している期間
  - 4) 本特記仕様書7.「作業日及び作業期間に関する事項」に規定する、工事全体を施工対象外としている期間
- (3) 「4週8休以上」とは、対象期間内の現場閉所日数の割合（以下、「現場閉所率」という。）が、28.5%（8日／28日）以上の水準に達する状態をいう。
- (4) 「現場閉所」とは、巡回パトロールや保守点検等、現場管理上必要な作業を行う場合を除き、現場事務所での事務作業を含めて1日を通して現場や現場事務所が閉所された状態をいう。なお、降雨、降雪等による予定外の現場閉所日についても、現場閉所日数に含めるものとする。

## 8-2 履行確認（週休2日の確保の確認方法）

- (1) 現場閉所を行うときは、工程会議等により監督員が事前に把握している場合を除き、事前に監督員にメール等で連絡をするものとする。
- (2) 受注者は、工事完了後に、週休2日の取得結果が確認できる「取得報告書」（様式-2）を作成し、監督員へ提出するものとする。また、工事途中において、監督員より「取得報告書」の作成及び提出を求められた場合は、その求めに応じるものとする。
- (3) 監督員は、受注者から提出された「取得報告書」を基に、週休2日の取得状況を確認するものとする。
- (4) 履行確認の結果、4週8休以上の現場閉所率に満たないものは、請負代金額を減額変更するものとする。

## 8-3 工期

本工事は、共通仕様書1-12「着工日」の規定によらず、受注者の円滑な工事施工体制の確保を図るため、事前に建設資材、労働者確保等の準備を行うことができる余裕期間を設定した工事であり、発注者が示した余裕期間内（工事着手期限までの間）で、受注者が工事の始期を任意に設定することができる。

余裕期間内は、主任技術者又は監理技術者を設置することを要しない。また、現場に搬入しない資材等の準備を行うことができるが、現場事務所等の設置、資材の搬入、仮設工事または測量等、工事の着手を行ってはならない。なお、余裕期間内に行う準備は受注者の責により行うものとする。

受注者は、受注者が設定した工事の始期までに、「工事打合簿」にて監督員に着工日を通知した上で、工事に着手しなければならない。

余裕期間（工事着手期限）：契約保証取得の日の翌日から60日間（まで）

## 8-4 週休2日工事に要する費用

### 8-4-1 補正対象項目及び補正方法

発注者は、週休2日工事の積算に当たっては、土木工事積算基準（4週8休）の規定に基づき設計金額の算出を行うものとする。

また、週休2日の確保を本特記仕様書8-2「履行確認（週休2日確保の確認方法）(2)」による確認後、4週8休以上の現場閉所率に満たないものは、請負代金額のうち補正分を減額変更するものとする。

なお、減額費用の算出方法等の取扱いについては、共通仕様書1-33-1「新単価」の規定によるものとし、NEXCOの土木工事積算基準により減額費用を算出するものとする。

### 8-4-2 支払い

週休2日工事に要する費用は、関連する単価項目に含むものとし、別途支払いは行わないものとする。



## 9. カーボンニュートラル試行工事

本工事は、受注者の提案によるカーボンニュートラルに資する取り組みを推進する「カーボンニュートラル試行工事」である。

受注者は契約後、カーボンニュートラルに資する取り組みについて監督員と協議し、監督員により履行が確認された場合は、しゅん功時の工事の成績評定において加点評価を行うものとする。

### 9-1 評価対象となる取り組み

本工事において、カーボンニュートラルに資する取り組みとして、発注者が評価する取り組みは以下の 1)～6) のすべてを満たす取り組みで監督員が認めたものとする。

- 1) 本工事で行う取り組み
- 2) 次のいずれかを行う取り組み
  - ・ 工事の施工に伴う二酸化炭素排出量の削減に寄与する取り組み
  - ・ 工事の施工に伴う二酸化炭素の吸収に寄与する取り組み
  - ・ 二酸化炭素の発生を低減して製造された資材等を活用した取り組み
- 3) 発注者が費用を計上していない取り組み
- 4) 他の取り組みなどで、工事成績評定で重複して加点評価しない取り組み
- 5) 対象工事において、実施が確認できる取り組み
- 6) 工事の安全や目的物の品質に影響を与えない取り組み

### 9-2 取り組み内容の提案及び加点評価対象の通知

カーボンニュートラルに資する取り組みの提案については次のとおりとする。

- 1) 受注者は取り組みを実施する場合、カーボンニュートラル施工計画書（様式－１０）を監督員に提出するものとする。
- 2) 監督員は、提出されたカーボンニュートラル施工計画書の内容を確認し、しゅん功時の工事の成績評定において加点評価対象となる提案項目を工事打合簿により受注者へ通知するものとする。

なお、監督員が提案項目を加点評価対象と認めない場合、受注者は施工計画書を修正し改めて提出することができるものとする。

### 9-3 履行の確認

カーボンニュートラルに資する取り組みの履行の確認については本特記仕様書に定める創意工夫・社会性等に関する実施状況（様式－１１）により工事完了までに監督員に提出するものとする。

なお、本工事で実施したその他の創意工夫・社会性等に関する実施状況の提出についても、共通仕様書の様式によらず、本特記仕様書で定めた様式－１１によるものとする。

## 10. 関連工事に関する事項

### 10-1 対象工事

契約書第2条に規定する発注者又は他の機関の発注に係る第三者が施工する他の工事は下表のとおりとする。なお、下表に示す工事は現時点での予定であり、追加及び変更が生じる場合は別途監督員から指示するものとする。

このほか、東日本高速道路(株)札幌管理事務所で行う安全対策会議及び規制調整会議に出席し、当該工事の規制に関連する工事の受注者と調整することとする。

工事名	主な関連事項	予定工期	施行主体	受注者名
札幌管内道路保全工事業務	工事区間の重複	通年	東日本高速道路(株)	(株)ネクスコ・メンテナンス北海道
施設保全工事業務	工事区間の重複	通年	東日本高速道路(株)	(株)ネクスコ・エンジニアリング北海道
施設保全管理業務	工事区間の重複	通年	東日本高速道路(株)	(株)ネクスコ・エンジニアリング北海道
道路保全点検業務	工事区間の重複	通年	東日本高速道路(株)	(株)ネクスコ・エンジニアリング北海道
管理施設保全工事業務	工事区間の重複	通年	東日本高速道路(株)	(株)ネクスコ・エンジニアリング北海道
札幌自動車道 雁来高架橋(下り線) 塗替塗装工事	工事区間の重複	令和4年12月29日 ～ 令和8年2月10日	東日本高速道路(株)	千代田レイヤー(株)
札幌自動車道 朝里高架橋補修工事	工事区間の重複	令和5年6月27日～ 令和7年11月12日	東日本高速道路(株)	岩田地崎建設(株)
札幌自動車道 札幌管内南地区舗装 補修工事	工事区間の重複	令和6年3月13日～ 令和8年3月2日	東日本高速道路(株)	(株)NIPPO
札幌管理事務所管内 低濃度PCB廃棄物 運搬処分業務	工事区間の重複	未定	東日本高速道路(株)	未定
札幌自動車道 小樽IC～銭函IC 間橋梁補修工事	工事区間の重複	未定	東日本高速道路(株)	未定

### 11. 工事費構成内訳書に関する事項

工事費構成内訳書の提出について、契約書第3条第1項に規定する「設計図書に基づく工事費構成内訳書」は、様式-3(別添)のとおりとする。なお、提出は共通仕様書1-19-1で規定する工程表と合わせて提出するものとする。また、工事費構成内訳書の提出は、当初契約締結時とし、契約変更時の提出は要しないものとする。

## 1 2. 工程表及び履行報告に関する事項

共通仕様書 1-19-1 「工程表の提出」及び 1-19-2 「履行報告」に規定する工程表（様式-4）の記入方法は下記のとおりとする。

### (1) 共通仕様書 1-19-1 に規定する工程表

- 1) 準備・跡片付けは、工程のみを棒グラフで記入する。
- 2) 準備・跡片付け以外の項目は、工程を棒グラフで記入し、棒グラフの上段に各月ごとに累計計画出来高（%）を記入する。
- 3) 右側摘要部分の目盛に従い計画出来高累計折線を記入する。
- 4) 工程表に示す項目は下表のとおりとする。

工程表の項目	単価表の項目
塗替塗装	塗替塗装（一般部）、塗替塗装（特殊部）、曲面加工（R面取り）
雑工	上記以外の合計

### (2) 共通仕様書 1-19-2 に規定する履行報告

上記工程表に下記の事項を記入し報告するものとする。

- 1) 棒グラフの下段に当月までの累計実施出来高を記入し、翌月以降の予定を（ ）で記入する。
- 2) 計画出来高累計折線に当月までの累計実施出来高及び翌月以降の予定を点線で記入する。
- 3) 当月までの延べ労働時間について月毎、年毎、累計について記入する。

## 1 3. 保安に関する事項

### 1 3-1 工事用車両の運行速度

一般道の人家連担区域等や高速道路上における運行速度は、法定速度若しくは規制速度を遵守するとともに、過積載の防止等法令を遵守するものとする。

### 1 3-2 標識等の設置

共通仕様書 1-25-1 「安全対策」に規定する安全対策を実施するにあたっては、必要とする箇所及び期間において、工事標示板、標識等の交通安全施設を設置するものとする。

また、一般道の規制において現道を掘削する場合や迂回路を設ける場合等は、堅固なバリケード、保安灯等により通行車両及び一般通行者の転落を未然に防止する措置を講ずるものとし、これに要する費用については、諸経費に含まれるものとし別途支払いは行わないものとする。

なお、安全対策について監督員が追加を指示した場合は、その指示に従わなければならない。この場合の費用については、監督員と受注者で協議し定めるものとする。

### 1 3-3 交通保安要員の配置及び桁下空間の確保

受注者は、下表に示す箇所に必要とする作業期間中は、本特記仕様書 1 9-4 に示すとおり、交通保安要員を配置しなければならない。また、下表に示す箇所を吊り足場や支保工等により遮断する場合は、一般車両及び工事用車両の通行に支障のないよう桁下空間を確保しなければならない。

番号	配置場所	桁下空間 (m)	摘 要
1	市道軍用線	4.5m	
2	市道桜 20 号線		
3	市道桜 1 号線		
4	市道桜 38 号線		
5	市道桜 7 号線		
6	市道桜町本通線		
7	市道桜 14 号線		

### 1 3-4 安全管理の強化

#### 1 3-4-1 注意喚起の方法

発注者が提供する他工事の事故情報に基づき実施する注意喚起や現場点検にあたっては、当該工事に状況を置き換え、点検項目を設定するなどより具体的に実施し、不備があれば速やかに改善すること。

#### 1 3-4-2 リスクアセスメント

工事の施工内容や施工環境の変化等に応じて、適宜、リスクアセスメントを設定（見直し）し、その結果に基づき、設計条件・施工条件・管理方法に対して必要な対策を講ずること。また新たに入所する作業班への引継ぎについても元請会社がその都度確実に実施すること。

特に供用道路、鉄道、家屋等に近接する第三者被害を伴う災害リスクが大きい工事や高速道路の規制を伴う工事は、事故発生の影響を考慮して適切なリスク評価を行うこと。

#### 1 3-4-3 資機材落下防止

特に道路・鉄道との交差又は近接箇所及び高速道路等での資機材の飛散・落下に伴う公衆災害の防止対策について徹底すること。また足場防護材及び養生材の隙間からの資材の漏れ・飛散等による公衆災害の防止対策について徹底することとし、施工計画書にそれら対策及び資材の漏れ・飛散等に対する点検について記載をすること。

#### 1 3-4-4 新規入場者教育

新規入場者教育については、下請会社の統制、教育終了の確認、教育未了者の入場抑止手段などに留意して、元請会社が確実に実施すること。

### 1 3-5 現場内の安全管理

作業計画書に基づく作業手順の徹底及び安全管理責任者による現場の管理・確認と是正指導を徹底すること。

### 1 3-6 現場内の安全整備

受注者は、工事現場内の安全を図るため現場内安全整備員を配置しなければならない。現場内安全整備員は、常に腕章を着用してその所在を明らかにするとともに、警笛等の安全指示器を携行して安全確保のための合図、後片付け及び水溜りの除去等の現場内整備を行うものとする。

なお、冬季休止期間並びに日常作業休止時においても、必要に応じ現場内の点検を行うなど常に安全の確保に努めなければならない。現場内の安全整備に要する費用は諸経費に含むものとし別途支払は行わないものとする。

### 1 3-7 第三者被害を想定した重大事故防止の取組み

#### (1) 定義

工事中の安全の確保については共通仕様書で規定しているところであるが、このうち下記に掲げる第三者への被害が想定される事故や供用中道路の通行止めや大渋滞に至る事故等（以下「重大事故リスク」という。）について、受発注者が一体となって安全向上に努める取組みをいう。

#### 1) 重大事故リスク

定義	項目	内容
定義①	第三者被害が想定される事故	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第三者の死傷事故</li> <li>○仮設材（橋梁架設ベント、仮栈橋の部材、足場等）の倒壊・転倒</li> <li>○住宅・道路等での近接作業による大型重機等の転倒</li> <li>○吊足場からの足場部材、・資材の落下</li> <li>○資機材運搬時の一般道路等への落下</li> <li>○光通信ケーブル等埋設物等の損傷による影響</li> <li>○工事に起因した家屋等の倒壊</li> <li>○供用路線 10 m 以内で施工する仮設土留工の仮設材等の落下又は転倒</li> </ul>
定義②	供用中道路の通行止めや大渋滞に至る事故	<ul style="list-style-type: none"> <li>○橋桁、足場等の落下等による高速道路本線・交差道路の通行止めの発生、及び短時間による通行止め解放が困難となる事で生じる大渋滞</li> <li>○供用路線 10 m 以内で施工する仮設土留工の仮設材等の落下又は転倒</li> </ul>

#### (2) 実施手順

実施手順は以下のとおりである。

#### 1) 施工計画書への反映

受注者は、設計図書及び関係法令に基づき、重大事故リスクの抽出を行い、それらに対する安全対策について施工計画書に記載するものとする。

## 2) 受発注者間の協議

発注者は、受注者から監督員に施工計画書の提出がされたときは、受発注者合同で施工計画書に示された重大事故リスクに関して、施工計画書及び設計図書並びに現場確認を通して安全対策に不足が無い確認（以下「重大事故リスクマネジメント」という。）を行うものとする。受注者は、協議の結果、施工計画書の修正が必要なときは修正された施工計画書を提出するとともに、受注者の全ての職員・作業員に対して実施すべき内容を伝達するとともに確実に実施すること。

## 3) 施工条件等の変更時の取扱い

発注者及び受注者は、施工条件等が変更となった場合は、前記 1)、2) で抽出し対策を定めた内容に変更が生じるときは改めて、前記 1) 及び 2) の手順により受発注者合同で重大事故リスクマネジメントを行うものとする。

## (3) その他

重大事故リスクマネジメントの実施に要する費用は、諸経費に含むものとし別途支払いは行わない。ただし、重大事故リスクマネジメントの結果、設計図書で示す現地条件以外に別途現地調査や技術的な検討が必要なことが明らかとなった場合の費用等は、実施方針等も含め別途受発注者間で協議して定めるものとする。

# 1 3-8 光通信ケーブル等損傷事故防止対策

## 1 3-8-1 光通信ケーブル等損傷事故の防止

受注者は、高速道路に埋設又は添架されている光通信ケーブル等管路（以下、「光ケーブル等」という。）の損傷事故を防止するために光ケーブル等との近接箇所の工事の施工にあたっては、「光通信ケーブル等損傷事故防止マニュアル（令和 3 年 7 月）」（以下、「光通信マニュアル」という。）に基づき、万全の措置を講じなければならない。

## 1 3-8-2 光通信ケーブル等損傷事故防止監理者

- (1) 受注者は、高速道路に埋設されている光ケーブル等の損傷事故を防止するため、工事の計画、現場指導等の強化を実施する専任の光通信ケーブル等損傷事故防止監理者を定め、監督員に通知しなければならない。
- (2) 光通信ケーブル等損傷事故防止監理者は、光通信マニュアルの内容を十分理解し、光ケーブル等の損傷事故防止に関して万全の措置を講じられるよう作業員に安全教育の徹底を図り、指導及び監督を行うものとする。また、試掘時及び近接工事作業時に現場に立会い、事故防止に関する指導、監督を行わなければならない。
- (3) 光通信ケーブル等損傷事故防止監理者は、現場代理人、主任（監理）技術者及び専門技術者と兼ねることができるものとする。

## 1 3-8-3 光通信ケーブル等損傷事故防止対策に要する費用

光通信ケーブル等損傷事故防止対策に要する費用は諸経費に含むものとし、別途支払いは行わないものとする。ただし、監督員が埋設物に対する試掘等の調査を指示した場合はこれに従うものとし、これらに要する費用については監督員と受注者とで協議し定めるものとする。

### 1 3-9 保安に関する費用

- (1) 本特記仕様書 1 3-3 に要する費用は、単価表の項目で支払いを行うものとする。1 3-4、5、6、7、8 に要する費用は諸経費に含むものとし、別途支払いは行わないものとする。
- (2) 受注者は、本特記仕様書 1 3-3 の表以外の箇所であっても、必要がある場合は交通保安要員を配置しなければならない。なお、監督員が交通保安要員の配置の変更を指示した場合は、これに要する費用については監督員と受注者で協議し定めるものとする。

## 1 4. 環境保全に関する事項

### 1 4-1 自然林の保全

河川区域内及び事業用地内の施工箇所の自然林については、工事によってむやみに伐採しないよう仮設計画等の施工計画段階で十分な検討を行い、周辺環境の保全に努めなければならない。

また、工事の施工に支障となる立木がある場合は、監督員に報告しその指示に従うものとし、これに要する費用については、監督員と受注者とで協議し定めるものとする。

### 1 4-2 砂塵等の防止

受注者は、工事用機械及び車両の走行による砂塵等の被害を第三者に及ぼさないよう善良な管理を行うものとする。

### 1 4-3 騒音等に関する配慮

受注者は、施工に伴う工事用機械及び車両の騒音対策について、近隣の地域住民へ十分な配慮を講じて施工を行わなければならない。

### 1 4-4 環境保全に関する費用

環境保全に関する事項は、関連する単価表の項目の単価に含むものとし、別途支払は行わないものとする。

## 1 5. 再生資源及び建設副産物に関する事項

### 1 5-1 再生資源利用計画書等の様式について

共通仕様書 1-28-2 「再生資源、建設副産物及び特定建設資材」(1) 及び(2) に示す再生資源利用計画書等の様式は共通仕様書の規定にかかわらず建設副産物情報交換システム(以下「COBRIS」という。)によるものとし、COBRIS 登録に要する費用は受注者の負担とする。

ただし、やむを得ない事由により COBRIS の使用ができないと監督員が認めた場合は、国土交通省のリサイクルホームページの建設リサイクル報告様式によることができるものとする。

## 1 5-2 建設副産物の活用等

(1) 共通仕様書 1-28 の規定に基づき指定する建設副産物の取扱いは、下表のとおりとする。

番号	建設副産物	発生場所	活用方法等	摘要
①	P C B 含有廃塗膜及び 廃塗膜が付着した保護 具・シート類	朝里川橋（上り線） （A1～A2） 桜町高架橋（上り線） （A1～A2）	一次保管庫において 発注者に引き渡し	旧塗膜の除 去により発 生するもの
②	ケレンかす及び研掃材		最終処分場へ搬出 （有償）	素地調整に より発生す るもの

(2) 上記(1)①に示す P C B 含有廃塗膜及び廃塗膜が付着した保護具・シート類については低濃度 P C B の保管方法に基づいた法律及びその他法令等に定めるところに従い、下表に定める保管容器に密閉し、本特記仕様書 5-1 に定める敷地に設置する一次保管庫にて適切に保管しなければならない。また(1)①に示す建設副産物（保管容器を含む）の処分については発注者が実施するものとする。

品名	規格等	単位	数量	処理方法	摘要
低濃度 P C B 廃 棄物（廃塗膜及 び廃塗膜が付着 した保護具・シ ート類）	保管容器 （ドラム缶） 200L、鋼製	缶	93	発注者に R7 年 9 月末 までに引渡し （引渡し場所：一次保 管庫）	朝里川橋の塗替塗装 により排出された低 濃度 P C B 廃棄物
			109	発注者に R8 年 9 月末 までに引渡し （引渡し場所：一次保 管庫）	桜町高架橋の塗替塗 装により排出された 低濃度 P C B 廃棄物

なおこれらに要する費用は関連項目の契約単価に含むものとし別途支払いは行わないものとする。施工方法等により廃棄数量の変更がある場合は、監督員と別途協議するものとする。

(3) 低濃度 P C B 廃棄物の一次保管庫についてはその仕様や面積等別途監督員の指示に従って設置を行うものとし、それらに要する費用については監督員と受注者との協議し定めるものとする。

(4) 上記(1)②に示すケレンかす及び研掃材は現時点で受け入れ可能処理場が不明確であり、かつ数量が未確定であるため、運搬・処理に要する費用については監督員と受注者で別途協議し定めるものとする。なお、溶出試験結果により活用方法を変更する場合がある。



## 1 6．補完検査に関する事項

### 1 6-1 補完検査

補完検査とは、しゅん功検査（一部しゅん功検査を含む。以下この項において「しゅん功検査等」という。）を実施しようとする時期に、現地気象条件等により工事目的物の検査（以下この項において「現地検査」という。）の実施に支障等が生じることが予想される場合に、しゅん功検査等に先立ち現地検査を行うものをいう。

### 1 6-2 補完検査の実施

補完検査は、現地気象条件等により現地検査の実施に支障等が生じることが予想され、しゅん功検査の場合にあつては共通仕様書 1-4 5-2（1）及び（2）、一部しゅん功検査の場合にあつては共通仕様書 1-4 6-2（1）及び（2）の条件を満たすと監督員が判断し、補完検査の実施について監督員から受注者に対して協議を行い、受注者が同意した場合に実施できるものとする。

### 1 6-3 検査日及び検査員名の通知

監督員は、補完検査の実施について受注者の同意が得られた場合は、補完検査に先立って受注者に対して、検査日及び検査員名を通知するものとする。

この場合において、受注者は、検査に必要な書類、資料及び写真等を整備するとともに、必要な人員及び機材等を準備し、提供しなければならない。

### 1 6-4 補完検査の内容

検査員は、監督員及び受注者の立会いの上、工事目的物を対象として契約書類と対比し、工事の出来形について、形状、寸法、精度、数量、品質及び出来ばえのうち現地にて確認すべき事項の検査を行う。

### 1 6-5 設計図書どおり工事が完成していない場合の取扱い

#### (1) 修補の指示

検査員は、修補の必要があると認めた場合は、受注者に対して、工期末の日（一部しゅん功検査の場合は指定部分の引渡し時期）を期限として修補の指示を行うことができるものとする。ただし、受注者がその指示に異議を申し出た場合はこの限りではない。

#### (2) 修補の完了の確認

検査員が、修補の指示をした場合において、修補の完了の現地確認は監督員が行うものとし、しゅん功検査時にしゅん功検査員に報告の上確認を受けるものとする。

#### (3) 修補が完了しない場合

検査員が指示した期限の日までに修補が完了しなかった場合には、受注者はしゅん功届又は一部しゅん功届を提出してはならない。この場合、受注者は修補の完了後、監督員に現地確認を受けた後にしゅん功届又は一部しゅん功届を提出するものとする。

#### 1 6-6 補完検査を実施した場合のしゅん功検査

##### 1 6-6-1 工事しゅん功届、工事一部しゅん功届提出の要件

補完検査を実施した場合は、共通仕様書 1-45-2、1-46-2 に規定する満たすべき要件に下記を追加する。

- ・補完検査において修補の指示を受けた場合は、その修補が完了していること。

##### 1 6-6-2 しゅん功検査の内容

補完検査を実施した場合は、修補の完了確認等特別な事情がない限り現地検査は行わず、書面にて共通仕様書 1-45-4、1-46-4 に規定する検査を行うものとする。

#### 1 7. 現場環境改善に関する事項

受注者は、工事現場の現場環境改善を図るため、現場事務所、作業員宿舍、休憩所又は作業環境等の改善を行い、快適な職場を形成するとともに、地域との積極的なコミュニケーション及び現場周辺の美装化に努めるものとする。

実施する内容については以下のとおりとし、共通仕様書 1-20-1 「施工計画書の提出」に規定する施工計画書に具体的な実施方法を記載するものとする。本件に関する費用については、諸経費に含むものとし、別途支払いは行わない。

計上費用	実施する内容（率計上分）
現場環境改善（仮設備関係）	1. 昇降設備の充実
現場環境改善（営繕関係）	1. 現場事務所の快適化（女性用更衣室の設置を含む） 2. 現場休憩所の快適化
現場環境改善（安全関係）	1. 盗難対策
地方連携	1. 社会貢献

#### 1 8. 工事変更等検討会の設置

本工事は、工事の変更手続きの透明性及び公正性の向上や適正な工期確保を目的に、発注者と受注者が一堂に会して、工事の変更等の妥当性の審議及び工事工程クリティカルパス等の共有ならびにこれらに伴う工事中止等の判断当を行う場として開催する「工事変更等検討会」の試行対象工事である。

「工事変更等検討会」の運用にあたっては、契約締結後、監督員より別途通知するものとする。

## 19. 工事細部に関する事項

### 19-1 施工計画書

共通仕様書 1-20-1 「施工計画書の提出」に次を追加する。

(16) 光通信ケーブル等損傷事故防止の対策

### 19-2 立入防止柵撤去設置工

#### 19-2-1 種別

共通仕様書 15-9-2 「種別及び発生材の処理」に下記を追加する。

単価表の項目	区 分 内 容
立入防止柵撤去設置工 A	鋼管ぐい基礎 (L=1200) タイプの既設立入防止柵を撤去し、再設置するもの
立入防止柵撤去設置工 B	コンクリート基礎 (L=500) タイプの既設立入防止柵を撤去し、再設置するもの

#### 19-2-2 施工

立入防止柵撤去設置工の既設撤去時にあつては、既設材料が再設置となるため破損等が無いよう慎重に行うものとする。なお既設撤去時に既に損傷等により再設置が不可能な場合は監督員に報告し監督員の指示に従うものとする。これに要する費用については、監督員と受注者との協議し定めるものとする。

#### 19-2-3 支払

共通仕様書 15-9-5 「支払」に下記を追加する。

	単価表の項目	検測の単位
15-(11)	立入防止柵撤去設置工	
	A	m
	B	m

### 1 9-3 塗替塗装

共通仕様書 1 7-4 塗替塗装に下記を追加する。

#### 1 9-3-1 種別

塗替塗装の種別は下記のとおりとする。

単 価 表 の 項 目	区 分 内 容	摘 要
塗替塗装 塗替塗装（一般部） c-3-(1) w (A)	朝里川橋上部工（鈑桁）一般部における塗替塗装で、旧塗膜の除去については湿潤化（塗膜剥離剤）による作業をいう。	
塗替塗装 塗替塗装（特殊部） g-3-(1) w (A)	朝里川橋上部工（鈑桁）特殊部における塗替塗装で、旧塗膜の除去については湿潤化（塗膜剥離剤）による作業をいう。	
塗替塗装 塗替塗装（一般部） c-3-(1) w (B)	桜町高架橋上部工（鈑桁）一般部における塗替塗装で、旧塗膜の除去については湿潤化（塗膜剥離剤）による作業をいう。	
塗替塗装 塗替塗装（特殊部） g-3-(1) w (B)	桜町高架橋上部工（鈑桁）特殊部における塗替塗装で、旧塗膜の除去については湿潤化（塗膜剥離剤）による作業をいう。	
塗替塗装 塗替塗装（一般部） c-3-(1) I H (B)	桜町高架橋上部工（鈑桁）一般部における塗替塗装で、旧塗膜の除去については電磁誘導加熱（以下：IH※）による作業をいう。	

※IHとは電磁誘導加熱により240℃以下の温度において鋼材を加熱することで、塗膜の付着力を低下させ塗膜を容易に剥離させるもの。

#### 1 9-3-2 塗膜の除去

受注者は、「鉛等有害物を含有する塗料の剥離やかき落とし作業における労働者の健康障害防止について（平成26年5月30日付け 厚生労働省労働基準局通達）」及び「剥離剤を使用した塗料の剥離作業における労働災害防止について（令和3年12月22日付け 厚生労働省労働基準局通達）」（以下「厚労省通達」という。）に基づき、鉛等有害物を含有する塗料の素地調整に先立ち、湿潤化（塗膜剥離剤）及びIHによる剥離やかき落とし作業を行うものとする。

IHによる旧塗膜の除去範囲等については、設計図書のとおりとする。

### 1 9-3-3 施工計画書

受注者は、共通仕様書 1-20-1 によるほか、厚生労働省通達、関係法令及び構造物施工管理要領Ⅲ-2-1 に基づくとともに土木研究所資料「土木構造物用塗膜剥離剤ガイドライン（案）」に準拠し、工事着手前に次の各号に掲げる事項の細部計画を記載した施工計画書を監督員に提出を行い、塗膜除去作業を実施しなければならない。

なお、監督員は提出された施工計画に不備もしくは明らかなかし等がある場合には、受注者に対し修正を求めることができるものとする。

#### 1) 計画工程表

#### 2) 安全管理体制

- ・ 喫煙場所及び足場内への火気持込禁止措置
- ・ 外部からの点火源の侵入防止対策
- ・ ベンジルアルコール及びジクロロメタンを含有する塗膜剥離剤を使用する場合、作業箇所における明示方法及び作業員以外の立ち入り禁止措置の方法
- ・ ベンジルアルコール及びジクロロメタンを含有する塗膜剥離剤の取扱い作業における作業員の常時状態把握の体制構築
- ・ ベンジルアルコール及びジクロロメタンを含有する塗膜剥離剤の吹き付け作業と塗膜除去作業の近接作業禁止措置
- ・ 作業中止の措置

#### 3) 塗装の除去方法及び主要材料

- ・ 使用する塗膜剥離剤の製品名
- ・ 塗膜剥離剤の使用量及び塗布回数（計画）
- ・ 塗膜剥離剤による塗膜除去困難箇所の範囲と残存する塗膜厚の目標値（平均）
- ・ 塗膜除去完了後の確認方法（乾式ブラスト施工前）
- ・ 塗膜くずの搬出及びその頻度
- ・ 安全データシート（SDS）及び製品の取扱い説明書の安全上の留意事項の遵守
- ・ 養生シート等全てのシートの難燃性能又は防火性能

#### 4) 使用する剥離剤の危険物該当の有無

- ・ 土木研究所資料「土木構造物用塗膜剥離剤ガイドライン（案）改訂第2版」の品質基準との適合
- ・ 安全データシート（SDS）などによる消防法で分類される危険物及び指定可燃物の種類

#### 5) 安全設備・装備

- ・ 換気設備の配置計画（作業箇所の全体換気と定位置換気）と作業中常時換気
- ・ 警報装置等（火災感知器・煙感知器・ガス検知器）の配置計画（同報機能を有すること）
- ・ 保護具の使用（防護眼鏡、送気マスクや防毒マスク、不浸透性の防護服・保護手袋・保護長靴）及び適正使用（使用方法、使用時間・回数等）
- ・ 帯電防止性能を有する安全衛生保護具（防護服、保護手袋、保護長靴及びシューズカバー等）の使用

- ・ 防爆性能を有する電気機器等（照明器具、電動機、変圧器、コード接続器、開閉器、分電盤、配電盤、換気設備等電気を通ずる機械）の使用と点検及び整備
- 6) 危険物の管理（保管数量の管理及び保管方法）
- ・ 危険物等チェックシート（別添１－１、別添１－２）の作成及び管理
- 7) 火災発生時の脱出・避難
- ・ 二方向以上を確保した避難路や昇降口以外の非常時の脱出口設置の計画
  - ・ 誘導灯の配置計画
- 8) 作業従事者への教育・訓練
- 9) 施工計画書チェックリストの確認、現場チェックリストの確認（別添１－３）

#### 1 9-3-4 作業主任者の配置

関係法令等に従い「作業主任者」を選任し、配置するものとする。

作業主任者を選任した場合は、作業主任者の氏名とその者に行わせる事項を作業場の見やすい箇所に掲示する等、関係労働者に周知するものとする。

#### 1 9-3-5 材料

共通仕様書 1 7-4-2 材料に下記を追加する。

- (1) 塗膜除去に使用する塗膜剥離剤は、「土木構造物用塗膜剥離剤ガイドライン（案）改訂第 2 版、（国研）土木研究所、平成 2 9 年 3 月」付属資料 1 「土木構造物用塗膜剥離剤およびこれを用いた塗膜除去工法の品質規格（暫定案）」によるものとする。ただし、剥離性については、1 回の塗布で除去できる塗膜厚の基準値、塗膜除去後の塗替え塗膜の耐久性・防食性は除くものとする。
- (2) 上塗塗装の塗色

上塗塗装の塗色は下表のとおりとする。

橋梁名	塗装系の種別	塗装箇所	上塗塗装の塗色
朝里川橋 (上り線)	塗替塗装（一般部） c-3-(1) w (A)	鈑桁	P 2 2-8 5 D (アイボリー系)
	塗替塗装（特殊部） g-3-(1) w (A)		
桜町高架橋 (上り線)	塗替塗装（一般部） c-3-(1) w (B)		P 2 2-8 5 H (うす黄色系)
	塗替塗装（特殊部） g-3-(1) w (B)		
	塗替塗装（一般部） c-3-(1) I H (B)		

共通仕様書 1 7-4-2 (2) に規定する上塗塗装の塗色は、（社）日本塗料工業会塗料用標準色見本帳（2 0 2 4 年 P 版）によるものとし施工前に上塗塗装の塗色について確認を行うものとする。

### 19-3-6 施工

共通仕様書 17-4-3 に下記を追加する。

#### (1) 塗装されている塗料

既存塗膜及び湿潤化による塗膜除去方法は下表のとおりとする。

橋梁名	既存塗膜		塗料	塗膜除去及び素地調整	摘要
	塗装系	履歴			
朝里川橋 (上り線)	a-1 f-1	一般部 特殊部	再塗装有	長油性フタル 酸樹脂塗料	塗膜剥離剤除去後乾式ブ ラストによる素地調整
桜町高架橋 (上り線)	a-1 f-1	一般部 特殊部	再塗装有	長油性フタル 酸樹脂塗料	塗膜剥離剤除去後乾式ブ ラストによる素地調整

塗膜剥離剤の標準使用量は  $1 \text{ kg/m}^2$  を想定している。塗膜剥離剤塗布・塗膜除去を行う回数は 1 回を想定している。なお、実施にあたっては、現地における剥離状況の確認を行い、剥離剤の使用量及び除去回数等、塗膜除去工について変更する必要があると監督員が認めて工法等の変更を指示した場合、受注者はその指示に従うものとし、請負代金額の変更が必要と認められるときは、監督員と受注者で協議するものとする。

剥離試験は施工年度毎に行うことを想定しているが剥離剤の使用量及び除去回数について見通しを立てるため、既存塗膜の構成や塗膜厚等について調査を指示する場合がある。調査に要する費用については監督員と受注者で協議するものとする。

#### (2) 素地調整

素地調整種別は下表のとおりとする。

橋梁名	素地調整の種別	摘要
朝里川橋 (上り線)	1 種	
桜町高架橋 (上り線)		I H 施工範囲については動力工 具を使用した素地調整とする

受注者は、塗膜剥離剤により既存塗膜の除去を行う場合、塗膜除去完了後に行う乾式ブラスト施工時において、PCB 等有害物の濃度を十分に低下させる実用上の効果が期待できる工法を使用するものとする。なお、塗膜剥離剤による既存塗膜の除去程度は、特殊部や狭隘部などの塗膜除去困難部を除き、黒皮又は鋼素地面を露出させるものとする。

また、IH により既存塗膜の除去を行う場合においても、塗膜除去完了後に行う動力工具による素地調整の際は、移動足場上での施工となるため十分な飛散防止対策を行った上で施工するものとし、作業中のケレンかすの飛散防止効果が期待できる電解質アルカリイオン水を使用するものとする。電解質アルカリイオン水については pH12.5 程度のもので、鋼材面に散布する際の防錆性能を持つものを使用するものとし、散布量については施工面積  $1 \text{ m}^2$  あたり 125ml 程度とする。また、安全データシート (SDS) によりその安全性を確認するものとする。

### (3) 廃塗膜及び研削材の処理

旧塗膜の除去により発生する廃塗膜の運搬・処分については、発注者が実施するものとし、素地調整により発生するケレンかす及び研削材の運搬・処分に要する費用については、監督員と受注者との協議して定めるものとする。なお、既設塗膜の成分分析結果は次表のとおりである。

橋梁名	部材名	項目				摘要
		鉛 (%)	総クロム (%)	P C B (mg/kg)	コールドタール (%)	
朝里川橋 (上り線)	一般部	1.8	0.01	1.6	1.8	
	特殊部	1.3	0.02	5.7	2.2	
	増塗部	1.7	0.01	6.5	0.7	
桜町高架橋 (上り線)	一般部	2.7	0.04	0.30	3.4	
	特殊部	2.8	0.03	1.7	2.4	
	増塗部	1.5	0.02	0.61	1.0	

### (4) 安全対策

施工にあたっては、厚労省通達、関連法令及び構造物施工管理要領Ⅲ－２－１－３の規定に従わなければならない。また、塗膜の除去作業にあたっては、作業員の安全や火災に対する安全等対策や周囲環境への影響についても考慮して行わなければならない。

### (5) 塗膜剥離剤による塗膜除去作業

塗膜剥離剤による塗膜除去作業にあつては、次の対策を実施する。

#### 【共通事項】

- ① ベンジルアルコール及びジクロロメタンを含有する塗膜剥離剤の取扱い作業箇所については、その旨を明示すると共に、作業員以外の立ち入り禁止措置を講じる。
- ② ベンジルアルコール及びジクロロメタンを含有する塗膜剥離剤の取扱い作業は、常時、作業員の状況を把握できるような体制を確保すること。
- ③ ベンジルアルコール及びジクロロメタンを含有する塗膜剥離剤の吹き付け作業と塗膜剥離剤を吹き付けた後の塗膜除去作業を近接した場所で同時に行うことは避けること。
- ④ 剥離剤及びIHを使用してかき落とした塗膜くずは、速やかに集積し、足場内に保管する場合は、小分けにし、難燃シート等により養生する。足場外には、少なくとも１日１回以上の頻度で搬出すること。また、保管を行う際は、本特記仕様書１５－２（２）に定める方法によるものとする。なお、作業中は安全データシート(SDS)及び製品の取扱い説明書に示された安全上の留意点に従うこと。
- ⑤ 水性の塗膜剥離剤を使用する場合であっても、塗膜除去の作業の実施箇所ごとに全体換気設備と合わせて作業箇所の低位置においても換気設備を配置し、作業開始前に十分換気し作業を開始するとともに、作業中常時使用すること。また、有効に作動するガス検知器を作業班ごとに配備し、可燃性ガスや中毒など人体に悪影響を及ぼす可能性のあるガスが滞留しやすい低い位置で測定を行い、使用する剥離剤に応じ適切に設定した基準



値を超過した場合及びその他異常を察知した場合は直ちに作業を中止し、作業員を退避させるとともに、換気等により濃度を下げる措置を行うこと。

- ⑥ 塗膜剥離剤は、土木研究所資料「土木構造物用塗膜剥離剤ガイドライン（案）改訂第2版」の品質基準に適合するものとし、安全データシート(SDS)などにより消防法で分類される危険物及び指定可燃物の種類を確認して、適切な方法で保管すること。また、塗膜剥離剤の品質基準以外の基準についても土木研究所資料「土木構造物用塗膜剥離剤ガイドライン（案）改訂第2版」に準拠すること。
- ⑦ 避難計画の作成にあたっては、二方向への避難路の確保や、昇降口以外に非常時の脱出口を設置し、煙充満時に避難誘導できる誘導灯等を避難路に設置すること。
- ⑧ すべての作業員に対して、安全並びに最悪事態の回避の意識の徹底・共有を図る教育を行うこと。
- ⑨ 施工計画書を遵守するとともに、現地条件等の変更が生じた場合は、施工計画を変更すること。また、確認にあたっては施工計画書チェックリスト及び現場チェックリスト（別添1－3）を作成すること。施工計画書チェックリストをもとに、施工計画書を確認し、現場チェックリストを用いて、現場を確認すること。監督員から要請があった場合、チェックリストで確認した結果を提出するものとする。

#### 【火災対策】

- ⑩ 塗膜除去の作業中は、作業に伴い火花が出る工具の足場内への持ち込みを禁止すること。また、電気機器（照明器具、電動機、変圧器、コード接続器、開閉器、分電盤、配電盤、換気設備等電気を通ずる機械）は防爆性能を有するものを定められた使用方法で適切に使用するものとし、点検、整備を十分に行うこと。
- ⑪ 危険物を足場内に持ち込まないこと。また、危険物等チェックシート（別添1－1、別添1－2）を作成し、危険物の管理を実施すること。監督員から要請があった場合、チェックシートで確認した結果を提出するものとする。
- ⑫ 喫煙場所を作業場所と独立した場所に配置する。また、足場内への火気（たばこ・ライター）の持ち込みを禁止すること。また、高速道路上の走行車両からの投げタバコ等、足場内に外部から点火源が侵入しないような対策を実施すること。
- ⑬ 養生シートも含め足場内で使用する全てのシートは、難燃性能又は防災性能を有するものを使用すること。
- ⑭ 水性の塗膜剥離剤を使用する場合であっても、防爆性能を有する電気設備、帯電防止性能を有する安全衛生保護具（防護服・保護手袋・保護長靴及びシューズカバー等）を使用する。
- ⑮ 火災発生時に同一足場内のすべての作業箇所に同報できる警報機器として火災感知器・煙感知器を配置する。なお、それぞれ有効に感知できる機種を選定し、適切な位置に配置すること。

### 【中毒対策】

- ⑯ 作業場所をビニールシート等で隔離し、通風が不十分となる場合は、作業場所内の剥離剤ガス、蒸気等の濃度が高くなることが想定されるため、換気等により濃度を下げる措置を行うこと。
- ⑰ ベンジルアルコールを含有する塗膜剥離剤の吹き付け等を行う作業者は、送気マスクを使用すること。
- ⑱ ベンジルアルコールを含有する塗膜剥離剤を吹き付けた後の塗膜除去作業は、送気マスク又は防じん機能を有する防毒マスクを使用させること。
- ⑲ ジクロロメタンを含有する塗膜剥離剤の吹き付け等を行う作業者は、送気マスクや防毒マスク（有機ガス用防毒マスクの型式検定合格品）を使用すること。
- ⑳ 防毒マスクは、使用時間及びマスクの状態を作業主任者など作業員以外の者が常時厳格に管理し、定期的に吸収缶を交換すること。
- ㉑ ジクロロメタンを含有する塗膜剥離剤を吹き付けた後の塗膜除去作業は、送気マスク又は防じん機能を有する防毒マスクを使用すること。
- ㉒ 防護眼鏡、送気マスクや防毒マスク（有機ガス用防毒マスクの型式検定合格品）、不浸透性の防護服・保護手袋・保護長靴などの保護具を確実に着用するとともに、防毒マスクの使用時間、使用回数等を遵守する。

#### (6) I Hによる塗膜除去作業

I Hによる塗膜除去作業は設計図書に示す範囲において、移動足場を使用して施工するものとする。また、施工範囲については設計図書によるものとする。なお、I Hによる塗膜除去作業にあっては、以下の対策を実施するものとする。

- ① 施工は橋梁鋼材面に影響のない温度で加熱を行うものとする。
- ② I Hによる塗膜除去作業に先立ち、加熱時の鋼材への影響の有無や、加熱温度、塗膜の除去状況（除去後の既存塗膜厚）の確認を行うものとする。

#### (7) 増塗塗装

塗替塗装の施工にあたり、最終下塗り1層を増塗りするものとし、この場合の施工は最終下塗り層に準拠するものとする。

塗装仕様については「構造物施工管理要領」Ⅲ－2－1－2の関連する塗装系によるものとする。

また、施工範囲については設計図書によるものとする。

### 1 9-3-7 支払

共通仕様書 1 7-4-6 「支払」に下記を追加する。

塗替塗装（一般部） c-3-(1) w (A) 及び塗替塗装（特殊部） g-3-(1) w (A)、塗替塗装（一般部） c-3-(1) w (B)、塗替塗装（特殊部） g-3-(1) w (B) の支払は、前項の規定に従って検測された数量に対し、それぞれ 1 m<sup>2</sup>当りの契約単価で行うものとする。この契約単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行う湿潤化による旧塗膜の除去、廃塗膜の一時保管庫までの運搬、保管容器及び保管容器への積込み、素地調整 1 種、ケレンかす及び研削材の現場内集積箇所までの運搬（ケレンかす及び研削材の現場から処分施設までの運搬・処分費を除く）、塗装（増塗塗装含む）等塗替塗装の施工に要する材料、労力、機械器具等本工事を完成するのに必要な費用で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。

塗替塗装（一般部） c-3-(1) I H (B) の支払は、前項の規定に従って検測された数量に対し、それぞれ 1 m<sup>2</sup>当りの契約単価で行うものとする。この契約単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行う I H による旧塗膜の除去、廃塗膜の一時保管庫までの運搬、保管容器及び保管容器への積込み、電解質アルカリイオン水による湿潤化、動力工具による素地調整 1 種、ケレンかす及び研削材の現場内集積箇所までの運搬（ケレンかす及び研削材の現場から処分施設までの運搬・処分費を除く）、塗装（増塗塗装含む）等塗替塗装の施工に要する材料、労力、機械器具等本工事を完成するのに必要な費用で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。

	単価表の項目	検測の単位
1 7-(2)	塗替塗装	
	塗替塗装（一般部） c-3-(1) w (A)	m <sup>2</sup>
	塗替塗装（特殊部） g-3-(1) w (A)	m <sup>2</sup>
	塗替塗装（一般部） c-3-(1) w (B)	m <sup>2</sup>
	塗替塗装（特殊部） g-3-(1) w (B)	m <sup>2</sup>
	塗替塗装（一般部） c-3-(1) I H (B)	m <sup>2</sup>

注) ( ) 内の数字は素地調整の種別を示す。

w は塗膜剥離剤による塗膜除去を示す。

I H は電磁誘導加熱による塗膜除去を示す。

## 1 9-4 交通保安要員

### 1 9-4-1 種別

土木工事共通仕様書 1 9-4-2 に規定する交通保安要員の種別は、下表のとおりとする。

単価表の 項目	配置場所	配置 人数	交替 要員	配置時間※1)	備考
交通誘導 警備員 B	朝里川橋（上り線）P6～A2 間	1 人	—	必要時間帯 （日出～日没） （一般道車線規 制による足場の 設置及び撤去時 に配置とする）	市道軍用線
	桜町高架橋（上り線）A1～P1 間	2 人	—		市道桜 20 号線
	桜町高架橋（上り線）P1～P2 間	3 人	1 人		市道桜 1 号線
	桜町高架橋（上り線）P2～P3 間	2 人	—		市道桜 38 号線
	桜町高架橋（上り線）P5～P6 間	1 人	—		市道桜 7 号線
	桜町高架橋（上り線）P7～P8 間	3 人	1 人		市道桜町本通線
	桜町高架橋（上り線）P10～P11 間	2 人	—		市道桜 14 号線
	桜町高架橋（上り線）P13～P14 間	2 人	—		市道桜 20 号線
	桜町高架橋（上り線）P15～A2 間	4 人	1 人		市道桜 1 号線※ 2)

※1)上表の配置時間は、作業時間（休憩時間を含む）とする。

※2)移動足場による塗替塗装施工時についても配置するものとする。

交替要員は、交通誘導警備員 B とする。

なお、受注者の責によらず、交通保安要員の配置場所及び配置時間が大幅に変更となった場合は、これらに要する費用について監督員と受注者で協議し定めるものとする。

### 1 9-4-2 交通保安要員実施報告書の提出時期について

受注者は、共通仕様書 1 9-4-3 「交通保安要員計画」に規定する交通保安要員実施報告書を翌月上旬までに監督員に提出するものとする。

## 20. 割掛対象表の項目に示す工事の内容

(1) 割掛項目対象表の項目に示す工事の内容は、共通仕様書第1章総則「表1－3 割掛対象表の項目に示す工事の内容」によるほか、次のとおりとする。なお、これに要する費用は関連する単価表の項目の単価に含むものとし、別途支払いは行わないものとする。

割掛対象表の項目名称	工事の内容
剥離剤用養生設備工	塗膜剥離剤による有害物質を含む旧塗膜の除去工の施工に必要となる、固定足場の床面及び側面に、難燃性のシート張り防護に要する費用をいう。
塗膜除去用環境対策資材	塗膜剥離剤による有害物質を含む旧塗膜の除去工及びブラスト工法による素地調整1種の施工に必要となる、クリーンルーム（フィルター交換に要する費用を含む）及び上記の作業とIHによる有害物質を含む旧塗膜の除去工並びに動力工具による素地調整1種の施工に必要となる粉塵専用掃除機（フィルター交換に要する費用を含む）の使用、負圧集塵機（フィルター交換に要する費用を含む）の設置に要する費用をいう。
塗膜除去用安全衛生保護具	塗膜剥離剤及びIHによる有害物質を含む旧塗膜の除去工並びにブラスト工法及び動力工具による素地調整1種の施工に必要となる、呼吸用保護具（送気装置等関連する装置一式）、化学防護服、防護手袋、防護シューズカバーに要する費用をいう。なお、呼吸用保護具本体はエアラインマスクとする。
移動足場工費	IHによる有害物質を含む旧塗膜の除去工と動力工具による素地調整1種で使用する高所作業車に要する費用をいい、移動足場内の床面及び側面に、難燃性のシート張り防護に要する費用を含む。
吊足場工費（防護型側面）	素地調整1種による塗替塗装の施工をする場合の足場構造でブラスト工法による素地調整のための側面足場（防護型側面）及び、シート張り防護工を含んでいる。シート張り防護工には、ブラスト用養生及び塗装用養生でそれぞれ必要となる費用を含む。
昇降足場費	塗替塗装の吊足場への移動に必要な昇降足場（シート張防護含む）に要する費用をいう。

## 2 1. 補足事項

### 2 1-1 設計図書の変更及び追加について

次に示す作業については、現在関係機関と協議中であり、関連する工事の設計内容を変更又は追加する可能性があるので、受注者は監督員と緊密な連絡を取るとともに、これについて監督員の指示があった場合は速やかにその指示に従うものとし、これらに要する費用は監督員と受注者で協議し定めるものとする。

- (1) 快適トイレを導入可能な場合は、仕様、費用について監督員と協議すること。
- (2) 当該吊足場内で現地を確認した結果に基づき、橋梁付属物補修工または取替工等を追加する場合がある。
- (3) 足場設置時に支障となる付属物は、撤去再設置工または取替工を追加する場合がある。
- (4) 関係機関との協議または現地条件により、足場の施工時間帯等を変更する場合がある。
- (5) 低濃度PCB廃棄物の一時保管庫の費用を追加する予定である。

### 2 1-2 工事記録情報の作成及び提出について

受注者は、共通仕様書 1-5 1-2 「工事記録情報」の規定に従って、「工事記録収集システム」へデータ入力完了後、「工事記録情報完了届」をしゅん功届提出予定の2週間程度前までに監督員に提出し、その後入力データの照査を受け、「工事記録情報チェック結果票」にて照査結果の通知を受けるものとする。また、照査の結果修正が生じた場合は、監督員の指示に従い速やかに修正を行うものとする。

工事記録収集システムに関する問い合わせ先は、別途監督員より通知する。

### 2 1-3 車両制限令を超える車両の運行に関する通行許可の確認結果の提出

受注者は、共通仕様書 1-6 2における確認については、許可証の原本やオンライン申請においてはダウンロードした電子ファイルデータで確実に確認し、その確認結果を監督員に提出するものとする。

### 2 1-4 緊急時の協力業務

本工事期間中に札幌管理事務所管内の高速道路において、災害等が発生した場合は、監督員の指示に従い災害復旧に協力するものとする。これに要する費用については、別途、監督員と受注者で協議するものとする。

## 2 1-5 間接工事費の変更

### 2 1-5-1 対象となる項目

本工事は、間接工事費のうち「共通仮設費（率分）のうち営繕費」及び「現場管理費のうち労務管理費」の下記に示す費用（以下「実績変更対象費」という。）について、工事実施にあたって不足する技術者や技能者を広域的に確保せざるを得ない場合も考えられることから、契約締結後、労働者確保に要する方策に変更が生じ、土木工事積算基準の金額相当では適正な工事の実施が困難になった場合は実績変更対象費の支出実績を踏まえて最終設計変更時点で設計変更する試行工事である。

- ・営繕費：労働者の送迎費、宿泊費、借上費

（宿泊費、借上費については労働者確保に係わるものに限る）

- ・労務管理費：募集及び解散に要する費用、賃金以外の食事、通勤に要する費用

なお、上記に関連し発生した間接工事費について、監督員が必要と判断した場合、その費用については監督員と受注者との協議し定めるものとする

### 2 1-5-2 工事費構成内訳書

発注者は、契約単価合意の時（単価協議時）に本工事の当初積算における共通仮設費及び現場管理費に対する実績変更対象費の割合を工事費構成内訳書にて提示するものとする。

### 2 1-5-3 間接工事費計画書の提出

受注者は、間接工事費の増加費用を請求する予定がある場合、工期開始の日から 1 4 日以内に、前項で示された割合を参考にして実績変更対象費に係る費用の内訳を記載した間接工事費計画書（様式-6）を作成し、監督員へ提出するものとする。

なお、工期開始の日から 1 4 日以内に間接工事費計画書（様式-6）の提出がなかった場合は、間接工事費の増加費用の請求は行えないものとする。

### 2 1-5-4 間接工事費の増加費用の協議

- (1) 受注者は、最終契約変更時点において、実績変更対象費の支出実績を踏まえた増加費用を請求する場合は、間接工事費の増加費用に関する協議書（様式-7）〔変更間接工事費計画書及び実績変更対象費にて実際に支払った全ての証明書類（領収書の出ないものは金額の適切性を証明する金額計算書など）〕を監督員に提出し協議するものとする。
- (2) 発注者は、受注者からの請求があった場合においては、監督員が算定した増加費用の額を記した増加費用の協議書をもって、受注者と協議するものとする。
- (3) 間接工事費の増加費用の額（増加費用に係る一般管理費等を含む）の協議は、監督員が間接工事費増加費用見積方通知書により、受注者に対して見積書を監督員に提出するように通知するものとし、受注者はその通知に従い間接工事費増加費用見積書（様式-8）を監督員に提出し協議するものとする。
- (4) 間接工事費の増加費用の額について、監督員からの間接工事費増加費用の負担額協議書により、受注者は同意書（様式-9）を監督員に提出するものとする。なお、協議開始の日から 2 8 日以内に協議が整わない場合には、監督員が定め、受注者に通知する。

#### 2 1-5-5 受注者の責めに帰す事由の増加費用

受注者の責めによる工事工程の遅れ等、受注者の責めに帰すべき事由による増加費用については設計変更の対象としない。

#### 2 1-5-6 実績変更対象費に基づく間接工事費の増加費用の算定

実績変更対象費の支出実績を踏まえて設計変更する場合の増加費用の算定については、次のとおりとする。

- (1) 共通仮設費率分は、土木工事積算基準に基づく算出額から間接工事費計画書（様式－６）に記載された共通仮設費率分の合計額を差し引いた後、証明書類において確認された費用を加算して算出する。
- (2) 現場管理費は、土木工事積算基準に基づく算出額から間接工事費計画書（様式－６）に記載された現場管理費の合計額を差し引いた後、証明書類において確認された費用を加算して算出する。
- (3) 間接工事費の増加費用は、一般管理費等の費用を含む。
- (4) なお、全ての証明書類の提出がない場合であっても提出された証明書類をもって金額の変更を行うものとする。

#### 2 1-5-7 虚偽申告

受注者から提出された資料に虚偽の申告があった場合については、法的措置及び競争参加資格停止等の措置を行う場合がある。

#### 2 1-5-8 疑義

疑義が生じた場合は、監督員と協議を行うものとする。

### 2 1-6 設計変更ガイドライン

工事の変更等においては、東日本高速道路㈱が制定・公表している「土木工事請負契約における設計変更ガイドライン」（当社ホームページに掲載 [https://www.enexco.co.jp/assets/pdf/bids/stipulation/engineering\\_works2307a.pdf](https://www.enexco.co.jp/assets/pdf/bids/stipulation/engineering_works2307a.pdf)）を参照のこと。

#### 2 1-7 保険の付保

保険の付保については、「共通仕様書 1-5-5-1 保険の付保」によらず、次のとおりとする。契約書第 57 条に規定する火災保険、建設工事保険、その他の保険（賠償責任保険は除く）の付保は任意とし、賠償責任保険（支払限度額 1 億円以上）は付保しなければならない。

#### 2 1-8 遠隔立会

遠隔立会とは、遠隔立会実施要領（令和 5 年 10 月 東日本高速道路株式会社）に基づき、共通仕様書「1-2 用語の定義」に定める「確認」及び「1-30 検査及び立会い」に定める検査及び立会いについて、デジタル通信技術を活用し遠隔地からの確認、検査及び立会いの実施により、受注者及び発注者の工事等管理業務の効率化による生産性向上を図るものである。

遠隔立会の実施有無、実施項目、費用等については、工事着手前に監督員と協議し定めるものとする。



令和 年 月 日 文書番号

東日本高速道路株式会社 支社（事務所）  
支社長（事務所長） 殿

会社名  
代表者

不動産貸付申請書

（本契約等）第〇条第〇項の規定に基づき、貴社所有の不動産を下記のとおり貸付けて  
いただきたく、申請いたします。

記

- 1. 不動産の種類（土地、建物、倉庫、車庫、駐車場所 等）
- 2. 不動産の所在地
- 3. 不動産の使用目的
- 4. 必要面積
- 5. 貸付希望期間
- 6. その他
- 7. 添付書類
  - 本契約等の契約書等写し

以 上

監督員

殿

令和 年

受注者  
現場代理人取得報告書

(工事名)

標記工事について、下記のとおり現場閉所の実績を報告いたします。

記

項目	内 容	日数	備考
対象期間	①令和○年○月○日 ～ 令和○年○月○日 着工日 ～ 工事完成日	日間	
	②年末年始（12/29～1/3）及び夏期休暇（3日）の期間	日間	
	③工事一時中止により工事全体を中止する期間	日間	
	④工場製作のみを実施している期間	日間	
	⑤冬期休止期間等特記仕様書に規定する発注者が工事 全体を施工対象外としている期間	日間	
	対象期間（A）＝①－②－③－④－⑤	日間	
現場閉所日	⑥土曜・日曜・祝日に現場閉所を実施した日数	日間	
	⑦平日の降雨・降雪等により現場閉所した日数	日間	
	現場閉所日数（B）＝⑥＋⑦	日間	
現場閉所率	現場閉所率＝B／A	%	

※監督員が閉所日を確認できる資料を求めた際には、受注者はこれに応じるものとする。

様式－ 3

令和      年      月      日

東日本高速道路株式会社 北海道支社（事務所）  
支社長（所長）      殿

---

住所  
会社名  
代表者名

---

## 工事費構成内訳書及び工程表の提出について

(工事名)

---

標記工事について、工事費構成内訳書及び工程表を作成いたしましたので、提出します。

様式－3（別添）

工事費構成内訳書

（工事名）

工種・種別・細別	単位	数量	金額	摘要
単価表の合計金額	式	1		
諸経費①	式	1		
諸経費②	式	1		
工事価格				
消費税及び地方消費税相当額	式	1		
工事費計				
工事価格のうち、現場労働者に関する健康保険、厚生年金保険及び雇用保険の法定の事業主負担額				

※必要に応じて法定福利費の算出根拠を添付すること。  
※諸経費は該当する項目のみ記入すること。

様式-4

工 程 表

工事名)

令和 年 工 期  
自) 令和 年 月 日

契約番号

工事区間  
自)

令和 年 工 期  
自) 令和 年 月 日

先月まで

(最上に計画出来高%)

受注者

至)

至) 令和 年 月 日 ( 日間)

今月分

(最下に実施出来高%)

項目	数量	単位	令和○年度												令和△年度												摘要
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
																										100%	
																										90%	
																										80%	
																										70%	
																										60%	
																										50%	
																										40%	
																										30%	
																										20%	
																										10%	
																										0%	
全 体																											

延べ労働時間(月毎) 単位:h																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
-----------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

冬季休止期間 ○月○日から○月○日

令和 年 月分工事工程報告

(工事名) \_\_\_\_\_

受 注 者  
現場代理人  
契 約 金 額

工期 自) 令和 年 月 日 ( 日間)  
至) 令和 年 月 日

項 目	設計数量	契約金額 (円)	換算率 (%)	累 計 出来高 (%)	前月迄 出来高 (%)	今 月 出来高 (%)	摘 要
全 体							

監督員

殿

令和 年 月 日

受注者  
現場代理人

間接工事費計画書の提出について

(工事名)

標記工事について、特記仕様書「請負代金額変更の特例」に基づき下記のとおり提出します。

記

【間接工事費計画書】				
費目		費用	内容	計上額（円）
共通仮設費	営繕費	借上費	現場事務所、試験室、労働者宿舍、倉庫、材料保管場所等の敷地借上げによる地代及びこれらの建物を建築する代わりに貸しビル、マンション、民家等を長期借上げする場合に要する費用	
		宿泊費	労働者が、旅館、ホテル等に宿泊する場合に要する費用	
		労働者送迎費	労働者をマイクロバス等で日々当該現場に送迎輸送（水上輸送を含む）をするために要する費用（運転手賃金、車両損料、燃料費等含む）	
	小計			
現場管理費	労務管理費	募集及び解散に要する費用	労働者の赴任手当、労働者の帰省旅費、労働者の帰省手当	
	賃金以外の食事、通勤等に要する費用		労働者の食事補助、交通費の支給	
	小計			
合計				

以 上

令和 年 月 日  
監督員 殿  
受注者  
現場代理人

間接工事費の増加費用に関する協議書

(工事名)

標記工事について、特記仕様書「請負代金額変更の特例」に基づき下記のとおり協議します。

記

1. 契約締結年月日                      令和 年 月 日
2. 契約番号
3. 工 期
- |         |    |    |   |   |   |
|---------|----|----|---|---|---|
| 1) 当初工期 | 自) | 令和 | 年 | 月 | 日 |
|         | 至) | 令和 | 年 | 月 | 日 |
| 2) 変更工期 | 自) | 令和 | 年 | 月 | 日 |
|         | 至) | 令和 | 年 | 月 | 日 |
4. 協議額                                      ¥                                      円  
(間接工事費の増加費用に係る一般管理費等を含まない)
5. 協議額内訳                                      別添「変更間接工事費計画書」のとおり

以 上



変更間接工事費計画書

（工事名）

（円）

費目		費用	内容	当初計上額	変更計上額	差額	
共通仮設費	営繕費	借上費	現場事務所、試験室、労働者宿舍、倉庫、材料保管場所等の敷地借上げによする地代及びこれらの建物を建築する代わりに貸しビル、マンション、民家等を長期借上げする場合に要する費用				
		宿泊費	労働者が、旅館、ホテル等に宿泊する場合に要する費用				
		労働者送迎費	労働者をマイクロバス等で日々当該現場に送迎輸送（水上輸送を含む）をするために要する費用（運転手賃金、車両損料、燃料費等含む）				
		小計					
	現場管理費	労務管理費	募集及び解散に要する費用	労働者の赴任手当、労働者の帰省旅費、労働者の帰省手当			
		賃金以外の食事、通勤等に要する費用		労働者の食事補助、交通費の支給			
	小計						
合計							

※ 実績変更対象費にて実際に支払った全ての証明書類（領収書、領収書の出ないものは金額の適切性を証明する金額計算書など）を合わせて提出すること。



様式－ 8

監督員

殿

令和 年 月 日  
受注者  
現場代理人

間接工事費の増加費用見積書

(工事名)

令和 年 月 日付け 号をもってご通知のあった標記については、  
下記のとおり見積りいたします。

記

間接工事費の増加費用 (一般管理費等を含まない額)	円
上記に係る一般管理費等	円
合計	円

以 上

令和      年      月      日

監督員 \_\_\_\_\_ 殿

受注者  
現場代理人

間接工事費の増加費用同意書

(工事名) \_\_\_\_\_

令和      年      月      日付け      号で協議のありました間接工事費の増加費用  
については同意致します。

以      上

## カーボンニュートラル施工計画書

工事名	
受注者名	
提案項目	
1. 提案内容	
2. 期待される効果	
3. 写真や図面など	

施工計画書は簡潔に作成するものとし、監督員宛に提出すること。

提案項目毎に１枚施工計画書を作成すること。

（注）Kcube2による提出とする。

## 創意工夫・社会性等に関する実施状況

工事名			受注者名	
項目	評価内容	実施内容		
<input type="checkbox"/> 創意工夫 自ら立案実施した創意工夫や技術	<input type="checkbox"/> 施工	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施工に伴う器具、工具、装置等の工夫</li> <li>・ コンクリート二次製品等の代替材の利用</li> <li>・ 施工方法の工夫、施工環境の改善</li> <li>・ 仮設備計画の工夫</li> <li>・ 施工管理の工夫</li> <li>・ I C T（情報通信技術）の活用等</li> </ul>		
	<input type="checkbox"/> 品質	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 土工、設備、電気の品質向上の工夫</li> <li>・ コンクリートの材料、打設、養生の工夫</li> <li>・ 鉄筋、コンクリート二次製品等使用材料の工夫</li> <li>・ 配筋、溶接作業等の工夫等</li> </ul>		
	<input type="checkbox"/> 安全衛生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安全教育・講習会・パトロール等の工夫</li> <li>・ 仮設備の工夫</li> <li>・ 作業環境の改善</li> <li>・ 交通事故防止の工夫</li> <li>・ 環境保全の工夫</li> </ul>		
	<input type="checkbox"/> カーボン ニュートラル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ C O 2 排出量の削減に寄与</li> <li>・ C O 2 の吸収に寄与</li> <li>・ C O 2 の発生を低減して製造された資材等の活用</li> </ul>		
<input type="checkbox"/> 社会性等 地域社会や 住民に対する 貢献	<input type="checkbox"/> 地域への 貢献等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 周辺環境への配慮</li> <li>・ 現場環境の周辺地域への調和</li> <li>・ 地域住民とのコミュニケーション</li> <li>・ 地域生活に密着した貢献活動等の実施</li> <li>・ 災害時など地域への支援・行政などによる救援活動への協力</li> <li>・ 任意の使用範囲におけるコンクリートへの混合セメントの使用（使用可能数量において、50%以上使用した場合）</li> <li>・ 国土交通省による認定を受けた低炭素型建設機械の使用等</li> </ul>		

1. 該当する項目の□にレマーク記入。
  2. 具体的内容の説明として、写真・図面等を説明資料に整理。
  3. 提出可能な項目数は、10項目までとする。
- （注）Kcube2による提出とする。

危険物等チェックシート①

工事名 \_\_\_\_\_

受注者名 \_\_\_\_\_

事務所 \_\_\_\_\_

保管場所名 \_\_\_\_\_

年 月 日時点

危険物名称	危険物数量 (全数量)	塗料メーカー 及び製品名称	危険物				指定可燃物		使用期間	ベンジルアル コール 含有の有無	ジクロロメタン が重量で1%以 上含有	備考(使用方法は 施工計画書に明 記すること)
			第一石油類 【非水溶性】 (引火点21℃ 未満のもの)	第二石油類 【非水溶性】 (引火点21℃ 以上で70℃未 満のもの)	第三石油類 【非水溶性】 (引火点70℃ 以上200℃未 満のもの)	第四石油類 【非水溶性】 (引火点200℃ 以上250℃未 満のもの)	可燃性 液体量	可燃性 固体量				
			指定数量:200 <sup>リットル</sup> (例)都条例5分の1 40 <sup>リットル</sup>	指定数量:1,000 <sup>リットル</sup> (例)都条例5分の1 200 <sup>リットル</sup>	指定数量:2,000 <sup>リットル</sup> (例)都条例5分の1 400 <sup>リットル</sup>	指定数量:6,000 <sup>リットル</sup> (例)都条例5分の1 1,200 <sup>リットル</sup>	指定数量 :2,000 <sup>リットル</sup>	指定数量: 3000kg				

※上記管理票については、ファイリングの上、保管場所に保管し、材料の入荷毎に更新すること

## 危険物等チェックシート②

※チェックした年月日を箱内に記入

## ●事前確認

- ・共通仕様書1-25-5 危険物の取扱いについて、その内容を確認している。
- ・危険物等の取扱い等について、労働安全衛生規則 第256条から267条に記載があるが、その内容を確認している。
- ・工事現場内に搬入する材料及び資機材等が危険物に該当するか確認している。
- ・危険物指定数量未満の危険物の貯蔵及び取扱いの基準は、市町村条例で定めているため、その条例を確認し、記入している。

実施者氏名：	実施者氏名：

## ●施工計画書

- ・危険物を用いた作業を行う場合は、保管場所、実際使用する数量、使用期間、使用方法の明記を行い、加えて、作業手順を詳細に記述した施工計画書を提出し、その手順を遵守している。

--

## ●管理・貯蔵

- ・危険物等チェックシートを作成して、危険物等管理責任者が管理している。

危険物等管理責任者の職務内容

- 1) 工事現場における1日あたりの危険物の取扱量と保管量の確認
- 2) 作業場所における危険物の取扱い、保管場所・方法の点検及び是正
- 3) 作業終了時に、足場内等の作業場に危険物が残置されていなかの確認。
- 4) 危険物に関する許可・届出との現場の整合についての点検及び是正

- ・各工事の危険物等の保管場所毎のチェックシートを入荷毎に作成(数値はその時点での総量とする。)している。
- ・チェックシートは、ファイリングのうえ、保管場所に保存し、材料の入荷毎に更新する。
- ・消防法第10条第2項で定める同一の場合は、原則として工区全体を一つの同一場所として、管理している。  
ただし、防火上有効に隔てられていると認められ場合には、所轄消防署に協議のうえ、同一の場所として運用することも可能である。

--


## ●許可・届出

- ・指定数量以上の場合、市町村長の許可により危険物貯蔵所・取扱所等を設置している。
- ・指定数量の5分の1以上、指定数量未満の場合、消防長又は消防署長へ少量危険物貯蔵・取扱の届出を行っている。
- ・指定数量未満の危険物及び指定可燃物その他指定可燃物に類する物品の貯蔵又は取扱いが市町村の条例に従っている。




## 塗膜除去工に関する施工計画書チェックリスト・現場チェックリスト

工事名

受注者名

事務所

別添1-3

●●年●●月●●日

※チェックした年月日を箱内に記入

# 施工計画書

## 現場確認

实施者氏名:

实施者氏名:

### 1) 計画工程表

- ・実施工程は、安全面に配慮された実施可能な工程となっている。
- ・火花が出る作業と同時期の施工の場合、可燃性ガス等影響がでない離隔がとれている計画となっている。

## 2) 安全管理制度

- ・塗膜除去工開始前に安全パトロールを実施することになっている。
- ・ベンジアルコール、ジクロロメタンを含有する塗膜剥離剤の取扱い作業箇所については、その旨を明示すると共に、作業員以外の立ち入り禁止措置を講じている。
- ・ベンジアルコール及びジクロロメタンを含有する塗膜剥離剤の取扱い作業において作業員の常時、状況把握の体制を構築している。
- ・ベンジアルコール及びジクロロメタンを含有する塗膜剥離剤の吹き付け作業と塗膜除去工について、近接した位置で同時作業とならない作業計画としている。

### 3) 塗膜剝離剤

- ・土木研究所資料土木鋼構造物用塗膜剥離剤ガイドライン(案)改定2版「土木鋼構造物用塗膜剥離剤およびこれを用いた塗膜除去工法の品質規格(暫定案)」の規定を満足している製品である。
- ・使用する剥離剤が危険物及び指定可燃物に該当しないか根拠資料とともに記述している。  
危険物かどうかは「危険物等チェックシート」を用いて確認する。
- ・使用する剥離剤の有害危険性について根拠資料とともに記述している。  
有害危険性のある物質のうち、ベンジルアルコール、ジクロロメタンの含有について「危険物等チェックシート」を用いて確認する。

#### 4) 塗膜剝離作業

- ・塗膜剥離作業中は、作業に伴い火花が出る工具の足場内への持ち込みを禁止している。
  - ・電気機器(照明器具、電動機、変圧器、コード接続器、開閉器、分電盤、配電盤、換気設備等電気を通ずる機械)は防爆性能を有するものを使用するものとしている。
  - ・電気機器の点検、整備及び使用方法が定められ、点検、整備を十分行うこととなっている。
  - ・ベンジナルコールを含有する塗膜剥離剤の吹き付け等を行う作業者は、送気マスクを使用するものとしている。
  - ・ベンジナルコールを含有する塗膜剥離剤を吹き付けた後の塗膜除去作業は、送気マスク又は防じん機能を有する防毒マスクを使用するものとしている。
  - ・ジクロロメタンを含有する塗膜剥離剤の吹き付け等を行う作業者は、送気マスクや防毒マスク(有機ガス用防毒マスクの型式検定合格品)を使用するものとしている。
  - ・防毒マスクは、使用時間及びマスクの状態を作業主任者など作業者以外の者が常時厳格に管理し、定期的に吸収缶を交換することとしている。
  - ・ジクロロメタンを含有する塗膜剥離剤を吹き付けた後の塗膜除去作業は、送気マスク又は防じん機能を有する防毒マスクを使用するものとしている。
  - ・保護具として、防護眼鏡、送気マスクや防毒マスク、不浸透性の防護服・保護手袋・保護長靴・シューズカバーを使用している。
- また、適正な使用方法、期間、回数で使用している。特に防毒マスクは、吸気管が破過して除毒能力が無くならないよう、使用時間を厳格に管理している。
- ・水性の塗膜剥離剤を使用時においても、帯電防止性能を有する送気マスク、防護服、保護手袋、保護長靴及びシューズカバー等を使用するものとしている。
  - ・養生シートも含め足場内で使用する全てのシートは、難燃性能又は防災性能を有するものを使用することとなっている。
  - ・かき落とした塗膜くずは、速やかに集積し、足場内に保管する場合は、小分けにし、難燃シート等により養生することになっている。
  - ・集積した塗膜くずは、足場外に、少なくとも1日1回以上の頻度で搬出することになっている。
  - ・運搬又は貯蔵を行う場合は、堅固な容器に入れる又は、確実に包装した上で、見やすい箇所に名称や取扱上の注意事項を表示している。
  - ・作業場所をビニールシート等で隔離し、通風が不十分となる場合は、作業場所内の剥離剤ガス、蒸気等の濃度が高くなることが想定されるため、換気等により濃度を下げる措置を行っている。
  - ・水性の塗膜剥離剤を使用時においても、電気設備は防爆性能を有するものを使用することとなっている。
  - ・水性の塗膜剥離剤を使用時においても、全体換気設備についてはプッシュ・プル換気の計画となっており、作業中は常時使用することになっている。

## 塗膜除去工に関する施工計画書チェックリスト・現場チェックリスト

工事名 受注者名 事務所

●●年●●月●●日

※チェックした年月日を箱内に記入

# 施工計画書

## 現場確認

实施者氏名:

実施者氏名:

10

Page 10 of 10

















- ・水性の塗膜剥離剤を使用時においても、全体換気の他に換気設備を塗膜剥離作業の実施箇所ごとの低位置に配置し、作業中は常時使用することになっている。
- ・水性の塗膜剥離剤を使用時においても、塗膜くずから発生するガスの種類を把握しているか。
- ・水性の塗膜剥離剤を使用時においても、常時換気と併せて、塗膜くずから発生するガスを検知できるガス検知器を作業班ごとに配備し、可燃性ガス、中毒性ガスが滞留しやすい低い位置で測定を行うこととなっている。
- ・夜間等に換気を停止した場合、作業開始前に十分な換気を行うなど十分な対策を行っている。
- ・可燃性ガス、中毒性ガスが適切に設定した基準値を超過した場合及びその他必要な異常を察知した場合は、直ちに作業を中止し、作業員を退避させるとともに、換気等により濃度を下げる措置を行うことになっている。
- ・剥離剤にジクロロメタンが重量で1%以上含有している場合は、以下の対策を講じている。(特化則に基づく義務を有する項目で、罰則有り)
  - ①有機溶剤作業主任者技能講習を修了した者のうちから特定化学物質作業主任者を選任し、労働者の指揮や保護具の使用状況の監視を行っている。
  - ②ジクロロメタンの名称、ジクロロメタンが人体に及ぼす作用、取扱い上の注意事項、使用すべき保護具について、作業場の見やすい場所に掲示している。
  - ③作業場所をビニルシート等で隔離し、通風が不十分となる場合は、局所排気装置又はプッシュプル型換気装置を設け、稼働している。  
ただし、その配置が困難又は作業時間がおおむね3時間以内である場合は、全体換気装置を設け、稼働させることでもよい。
  - ④作業には防護眼鏡並びに不浸透性の防護衣、防護手袋及び防護長靴を使用している。
  - ⑤洗顔、洗身又はうがいの設備、更衣設備及び選択のための設備を設けている。
  - ⑥剥離された物にもジクロロメタンが含まれているので、運搬又は貯蔵するときは、堅固な容器に入れる又は確実に包装した上で、見やすい箇所にジクロロメタンの名称や取扱い上の注意事項を表示している。
  - ⑦ジクロロメタンを含む剥離剤の取扱い作業に常時従事する労働者に対しては、ジクロロメタンに関する健康診断を6月以内ごとに実施している。
  - ⑧ジクロロメタンを含む剥離剤の取扱い作業に従事する労働者について、1月を超えない期間ごとに当該労働者の氏名、従事した作業の概要や期間等を記録し、30年間保存している。

5) 危険物の管理(保管数量の管理及び保管方法)

- ・危険物の取扱い(数量、保管方法、管理方法等)について、「危険物等チェックシート」に記載している。また、実際の現場が計画通りになっている。
- ・足場内に危険物や有機溶剤を持ち込まないこととなっている。

#### 6)現場における喫煙等

- ・喫煙場所を作業場所と独立した場所に定めている。
- ・足場内への火気(たばこ・ライターなど)の持ち込みを禁止し、確認方法について記載がある。また、実際の現場が計画通りになっている。
- ・喫煙場所を示す表示、注意事項(火気厳禁など)などを現地に掲示することとなっている。
- ・外部からの投げタバコが、作業内に入らない措置をすることとなっている。

## 7) 最悪事態の回避

- ・火災発生時に同一足場内のすべての作業箇所に通報できる警報機器を配置することとなっている。
- ・火災を感知する方法として効果的な感知方法（例えば煙感知式）などが採用されている。
- ・火災発生時に同一足場内のすべての作業箇所に通報できる警報機器として火災感知器・煙感知器を配置することとなっている。
- ・警報機器は、それぞれ有効に感知できる機種を選定している。
- ・警報機器は、適切な位置に配置することとなっている。
- ・避難計画の作成にあたっては、二方向への避難路を確保し、煙充滿時に避難誘導できる誘導灯等を避難路に設置することとなっている。
- ・避難距離が長く、安全に避難できないことが懸念される場合は、昇降口以外に非常時の脱出口の設置が計画されている。（避難梯子など）

# 塗膜除去工に関する施工計画書チェックリスト・現場チェックリスト

工事名 \_\_\_\_\_ 受注者名 \_\_\_\_\_ 事務所 \_\_\_\_\_

●●年●●月●●日

※チェックした年月日を箱内に記入

**施工計画書**      **現場確認**

実施者氏名:		実施者氏名:	

・消火器が、通行時・避難時の支障にならない位置に20m以内の適切な間隔で配置する計画となっている。

## 8) 作業従事者への教育・訓練

- ・塗膜除去工の作業開始前にすべての作業員に剥離剤に含まれる化学物質の有害性、作業上の注意点(特に、保護具等の適正使用、火災安全に関する安全)並びに最悪事態の回避の意識の徹底・共有を図る教育を行うこととなっている。
- ・新規入場者への教育についても火災安全に関する安全並びに最悪事態の回避の意識の徹底・共有を図る教育を行うこととなっている。
- ・毎日、朝礼時に、作業員全員で、避難ルートを確認することとなっている。
- ・火災時の状況によっては、避難を優先することを安全教育となっている。